

世界の動物地理区

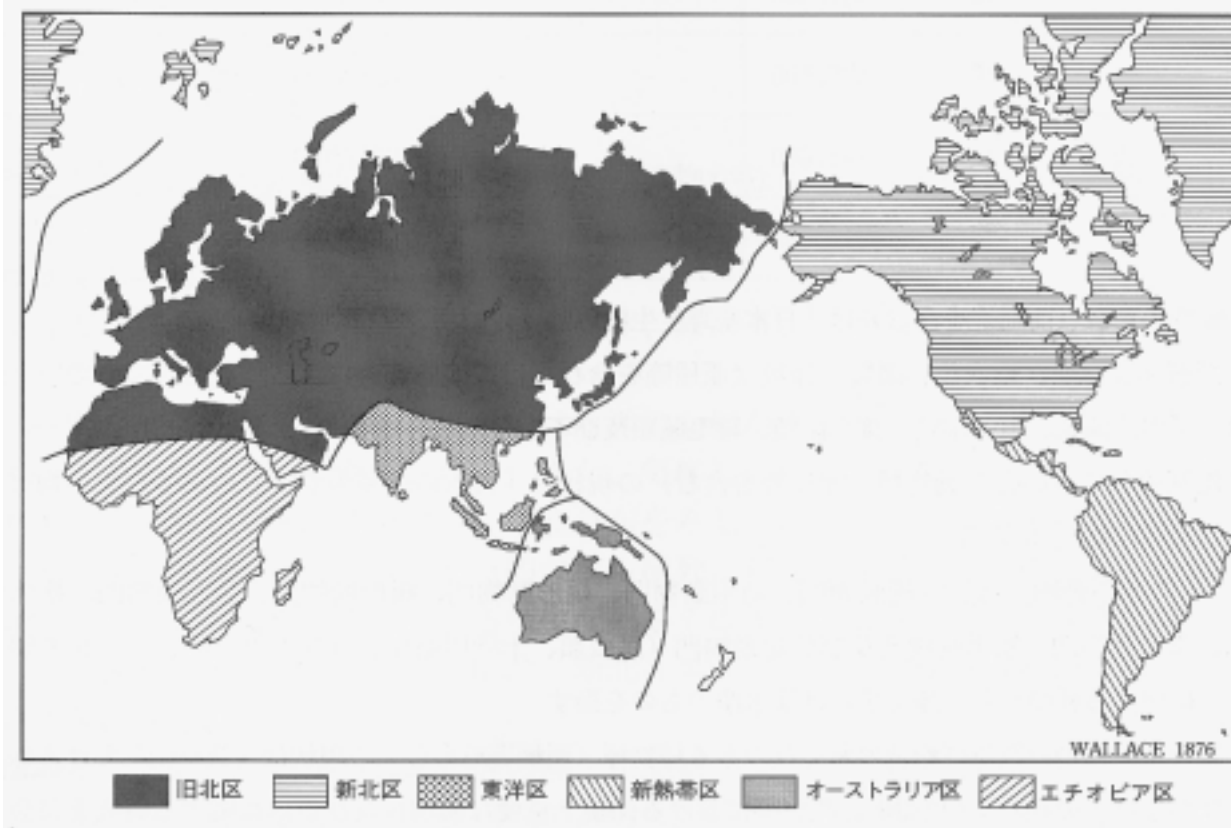


表2 世界の動物地理区

動物区系：地球上の大陸や島の中で、他と区別できる特徴ある生物相をもつ動物区系地理学上の区域。各動物地理区の動物相はプレートテクトニクスでいわれているような地質時代における陸地の接続や分離のため複雑化するのに加え、発祥の時期や場所、さらに生活系を事にする動植物によって分布のありさまが異なることなどのために、明確な線で画されるような動物地理区の設定は困難であり、推移帯も多く認められる。

各区の名称	各区の位置	区を代表する動物	日本に生息する代表種
旧北区	東南アジアを除くユーラシア大陸とサハラ砂漠以北のアフリカ大陸を含む。広大で環境の変化に富み、生物の多様な分化が見られる。ラクダ、ヒツジなどで特徴づけられる。	ラクダ、ヒツジ、ウマ、ノガンなど	カヤネズミ、タヌキ、イイズナ、イノシシ、カケス、トキなど
新北区	北アメリカ大陸の大部分を含む。エダツノカモシカ、ロッキービーバーなどで特徴づけられる。ウマとラクダは当区で発生したといわれる。鳥類爬虫類の2/3は固有種とされる。	エダツノカモシカ、ロッキービーバー、ドクトカゲなど	
エチオピア区	サハラ砂漠より南のアフリカ大陸を含む。チンパンジー、ダチョウなどで特徴づけられ、哺乳類の2/3、鳥類の3/5が固有種とされる。	キリン、カバ、ダチョウ、ヘビクイワシなど	
東洋区	ヒマラヤ以南の南アジア、東南アジア、南中国、台湾、琉球を含む。ヒヨケザル科、クジャク、トビトカゲなどで特徴づけられる。セレベス地方はオーストラリア区との移行帯を示す。旧北区との境界は明瞭でないが、渡瀬線は北限として知られる。	ヒヨケザル、メガネザル、オランウータン、クジャクなど	オオコウモリ、ハブ、キノボリトカゲなど
新熱帯区	南アメリカ大陸を含む。オマキザル科、アリクイ科、ナマケモノ科、アルマジロ科、シギダチョウ科などにより特徴付けられる。カリブ地域は新北区との移行帯を示す。	オマキザル、ナマケモノ、アルマジロ、シギダチョウなど	
オーストラリア区	オーストラリア大陸とニューギニアを含む。カモノハシ、カンガルー、エミュー、コトドリなどによって特徴づけられる。ユーラシア大陸とは中生代後半から新生代第三期を通じて隔離されていたため、きわめて多くの固有種を持つ。	カモノハシ、カンガルー、エミュー、コトドリなど	

出典：L.. Schmarda (1853)やP. L. Sclater (1858)などによって先鞭をつけられ、A.R.ウォレス(1876)の“動物の地理的分布”により大成された。